

平成 28 年度 「千代田学」事業実績報告書

# 小学生を対象にした千代田区の地域素材の 教材化に関する実践的研究

— 「千代田区子ども検定」の作成・発信 —



共立女子大学家政学部児童学科

本澤 淳子

平成 28 年度 「千代田学」事業実績報告書

小学生を対象にした千代田区の地域素材の  
教材化に関する実践的研究

— 「千代田区子ども検定」の作成・発信 —



「千代田区子ども検定」マスコットキャラクター  
ハクチョ博士

共立女子大学家政学部児童学科

本澤 淳子

小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究  
— 「千代田区子ども検定」の作成・発信 —

目 次

はじめに	1
I 本事業の概要	5
1 事業の名称	
2 事業の目的	
3 千代田区との関連性	
4 事業を行う目的及び目指す最終的な到達点	
5 調査・研究の手法	
6 成果の発表・活用方法	
7 28年度実施計画	
II 研究経過	8
1 地域素材の収集・選定	
2 情報収集	
3 検定問題の作成	
4 検定問題の検討	
5 検定問題冊子の作成	
III 検定問題作成の実際	15
1 検定問題作成の視点を定める	
2 検定問題を児童の側から改良する	

IV	千代田区内小学生に実施したアンケート調査と結果	22
1	アンケート調査	
2	アンケートの結果と考察	
V	研究の成果と課題	29
	参考文献	31
	終わりに	32
資料編	「千代田区子ども検定 おためし版」	

## はじめに

### 1 小学生は未来の地域の担い手である

#### ■「千代田区子ども検定」の作成・発信

本事業により作成・発信しようとしている「千代田区子ども検定」は、小学校の社会科、総合的な学習の時間等における学習指導を前提に、これをさらに生活化、日常化することを目的とした「地域素材の教材化」の一つの方法である。

子どもたちは、千代田区について、各教科等の学習指導や学校行事、地域行事を通して学び、また、日々の生活においても、地域の文化、歴史、自然等さまざまな体験を重ねて学んできている。千代田区についてのこうした学習や体験を、「千代田区子ども検定」という視点から再構成して子どもたちに提供するのがここでの主たる研究内容である。

子どもたちは、この検定を楽しく体験することにより、身近な地域についての知識をより確かなものにし、新たに知識を獲得したりすることができるだろう。「検定」を体験することを通して、「千代田区についてはよく知っているつもりだったけれど、こんな歴史があることは知らなかった」、「自分でももっと詳しく調べてみたい」、「このお祭りに家族で出かけてみたい」などのように、千代田区への愛着・親しみ・誇りがより一層高まることが期待される。

#### ■千代田区の子どもの「ふるさと」

小学校学習指導要領（社会）では、第3学年及び第4学年の目標として、「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」、「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」、「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」の三つが示されており、地域社会の学習の主題とされている。

また、総合的な学習の時間においても、小学校学習指導要領「第3 指導計画の作成と内容の取扱い1.（5）」では「学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や

学校の特徴に応じた課題についての学習活動などを行うこと。」のように、地域教材を土台とした学習活動が奨励されている。

本事業は、子どもたちの学習や生活を中心として、同心円上に広く位置づくものであるから、上記の下線を施した部分についてはここでも重視する必要がある。下線部の「地域社会」を「千代田区」に置き換えると「千代田区の一員としての自覚」、「千代田区に対する誇りと愛情」となる。これは、本事業のキーワードでもある。

小学生は、10年後、20年後には社会の担い手として活躍する人材となる。千代田区で育った子どもたちは、この地で、あるいは千代田区から日本各地、世界へと羽ばたき活躍することだろう。その子どもたちの「ふるさと」がこの千代田区である。「ふるさと」の言葉から私たちは都会から離れ自然に囲まれた土地を思いうかべてしまいがちであるが、千代田区で学ぶ子どもたちにとってのふるすとは、この現代的な街、日本の中心とも言えるこの地である。子どもたちがこの千代田区にさらに愛着をもち、誇りをもつこと、言わば「ふるさと意識」の醸成は、一人一人を豊かに確立させるだけでなく、将来の千代田区の発展に寄与することにつながるものである。

## 2 「千代田区」に関する地域素材の教材化

### ■地域素材を教材化することの意義・課題

地域は、子どもたちにとっての遊びの場であり、生活の場である。そこで、子どもたちはさまざまな事象・事物に直接ふれている。「地域」とはこのように子どもたちにとって極めて身近なものであるが、これを教材化する有用性については、次のように考えることができる。

- ・子どもの生活の中から出てきた経験を活用・尊重することができるため、学習に対する興味・関心や意欲を高めることができる。
- ・課題に対して、子ども自らが調査したり、資料の収集・作成等を行ったりすることも可能であるため実感をもって取り組むことができ、主体的な学習活動が期待できる。
- ・子どもの生活経験の中から生まれた意識と結んで考えることにより、子どもと事象・事物との距離を縮めることができる。
- ・地域と自分とのつながりがより明確になり、地域社会の一員としての自覚を促すことができる。

このような意義が挙げられる一方で、地域学習における教材開発には以下のような難し

さも想定することができる。

- ・教科書（副読本）の事例と自分たちの住んでいる地域の事例とが異なるために、教科書を十分に活用することが難しい。
- ・地域学習を進めるにあたって、指導者がその地域を知り、学習に適した地域素材を見つけ、その地域素材を教材化し授業を展開するのは容易なことではない。教材化を図るといっても、その方法がわからないといった声も多く聞かれる。地域教材の開発に必要な地域観察力やフィールドワーク技法を身につけることが望まれる。
- ・実際の授業場面においても、見学やまとめることに時間を費やしてしまい、「調べっぱなし」、「資料を書き写しているだけ」のような、学習のねらいに迫りきれていないケースも見られる。

このように、指導者は、時間的な余裕がない、指導者自身が地域を十分に知らない、といった悩みを抱えながら、地域学習の指導にあたっているのが現状であると言ってよいだろう。

#### ■大学生だからこそできる地域教材開発を

共立女子大学家政学部児童学科・本澤ゼミの学生の多くは小学校教員を目指している。いずれ、それぞれが採用された地で、地域素材を教材化する必要に迫られることもあるだろう。そこで、「学生に共通するふるさと」として本学の所在地である千代田区を取り上げて、地域教材の開発を実際に行ってみることを計画した。

現職の教員に比べれば時間の余裕もあるこの時期だからこそ、フィールドワークにも取り組むことが可能である。インターネットで調べれば情報が容易に入手できる時代であるからこそ、自分自身で見聞きし、地域の方々と実際にふれあいながら情報を収集し、地域学習の醍醐味を味わいながら教材開発を行うよさを知ることできるだろう。

ここでの「地域教材の開発」とは、単に地域の興味深い素材を見つけ出してくることを意味するものではない。素材を見いだすことはもちろんであるが、子どもたちが行うであろう学習活動（課題の設定から調査、情報の再構成、発信までの一連の情報処理活動）をゼミ生が実際に進めてみる、すなわち、学習者の視点に立った地域教材の開発を行うことを意図している。

具体的には、本澤ゼミ生が、千代田区の文化・歴史・自然等について学習者の視点で調べ、収集した情報をクイズとして再構成する。これを「千代田区子ども検定」として、小学生中高学年及びその保護者を対象に発信し、実際に検定問題を楽しく解いてもらおうと

するものである。

#### ■「千代田区子ども検定」の作成・発信

10年ほど前になるが、「ご当地検定」が脚光を浴びた時期があった。たいへん有意義な取り組みであるにもかかわらず、一時の流行として扱われる傾向も見られたのは残念なことであった。しかし、日本商工会議所認定のご当地検定は現在も多くが継続され、この数年で新たに生まれた検定もある。ご当地検定は、その地に暮らす者が自らの郷土愛を「検定」で試してみるという仕組みそのものが楽しく、また、検定を受けることによって新たに知識を得る機会にもなる。千代田区は、江戸時代から日本の中心となってきた地であり、文化や歴史も検定問題として掬い取れないほど豊かな地域であるが、千代田区の魅力を検定によって子どもたちに少しでも伝えたいと考える。

本事業では、本澤ゼミ生が学習者の視点に立って千代田区についての情報収集を行い、「千代田区子ども検定」として発信する実践的研究を行う。検定を受ける対象を、千代田区の小学校中・高学年児童とその保護者と想定し、また、最終的には検定問題の特設ホームページによって公開し、いつでも楽しむことができるものにしていく計画である。今年度はその前提として、「検定おためし版」を発行し、千代田区内の小学生に配布することとした。「このような問題も検定に加えてほしい」と小学生からリクエストをもらえるようになれば、まさに作り手と受け手とが一体となって千代田区のすばらしさを考え味わう格好の場になると期待している。



## I 本事業の概要

### 1 事業の名称

小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究  
—「千代田区子ども検定」の作成・発信—

### 2 事業の内容

千代田区について、児童は各教科等の学習指導や学校行事、地域行事を通して学び、また、日々の生活においても、さまざまな体験を重ねながら地域の文化・歴史・自然等を学んできている。千代田区についてのこうした学習や体験を、「千代田区子ども検定」として再構成し、児童に提供するのがここでの主たる研究内容である。具体的な取り組みとしては、以下のようなになる。

○共立女子大学本澤ゼミの学生が中心となって、小学生（小学校中・高学年児童）の視点から千代田区の地域素材（歴史・文化・自然等）について取材・調査等の情報収集を行う。

○収集した情報をもとに、「千代田区物知り博士」を目指す「千代田区子ども検定」を作成する。

○「検定」は、小冊子の「おためし版」による部分公開を経て、最終的には特設ホームページで公開する。

千代田区内の小中学生とその保護者が「検定」を楽しく受けて地域のすばらしさについて語り合い、千代田区についてさらに理解を深めたり、千代田区への愛着・誇りをより高めたりすることを意図するものである。また、「検定」を作成するからには、学生にも千代田区について熟知することが求められる。一連の研究活動を通して、学生も千代田区を「第二のふるさと」として親しむようになることが期待される。

### 3 千代田区との関連性

以下のように、千代田区独自の内容を取り上げ、区内の小中学生親子に向けて研究成果を提供する。

○千代田区ならではの豊かな地域素材（歴史・文化・自然等）について、小学生の視点に立って情報収集し、「千代田区子ども検定」として教材化を図る。

○この「検定」は、千代田区の小学校中・高学年児童とその保護者を主な対象として発信する。

#### 4 事業を行う目的及び目指す最終的な到達点

○千代田区の歴史・文化・自然等について、小学生の視点からフィールドワークを中心とする情報収集を行い、その情報をもとに児童及びその保護者を対象とした「千代田区子ども検定」を作成・発信する。

○千代田区小学生親子が「千代田区子ども検定」を受ける楽しさを味わいながら、「わが町・わがふるさと 千代田区」の歴史・文化・自然のすばらしさを実感し、郷土への愛着・誇りがさらに高まることを目指す。同時に、検定を提供する学生側にも「千代田区」への親近感が増すようになる。

#### 5 調査・研究の手法

本研究は、ゼミ生を主体として、以下のような方法・手順を進める。

○小学生の視点に立った文献研究、情報収集

区内の小学校中・高学年児童にとって、千代田区についての情報源となっていると考えられる資料を収集・精査し、小学生の視点から素材を選定する。資料としては、『社会科副読本 わたしたちの千代田区』（千代田区教育委員会発行）、千代田川柳絵葉書かるた、千代田区ホームページ、千代田区観光協会ホームページ及び同協会が配布している観光案内、各小学校学校要覧等が考えられる。これに現地調査も加え、素材の選定を行う。

○交流の生まれるフィールドワーク

選定した素材について、ゼミ生が地域の方々と交流しながら取材・聞き取り調査等を行う。

○地域の情報を「千代田区子ども検定」として再構成

・第一次案は、小冊子による「おためし版」として部分公開し、児童、小学校関係者等から実際に解いて気づいたことや改善点等についてアンケート調査を実施する。

・アンケート結果をふまえて改善し、「検定」を完成させる。

#### 6 成果の発表・活用方法

○「千代田区子ども検定」として、区内の小学生とその保護者を主たる対象として発信す

る。

- ・平成 28 年度は、小冊子による「おためし版」を作成し、区内の小学 3 年生から 6 年生に配布する。
- ・平成 29 年度以降は、特設ホームページで公開し、いつでも楽しむことのできる「検定」として提供できるようにする。

## 7 28 年度実施計画

- 資料精査・フィールドワークにより地域素材を選定（27 年度から継続～9 月）
- 選定した素材について、再度、取材・調査（4～10 月）
- 検定問題作成
  - 内容・表現方法、著作権等についての検討（7～11 月）
- 「千代田区子ども検定」（第一次案）作成（9～11 月）
- 「検定おためし版」の部分公開（11～1 月）
- アンケートの作成（11 月）
- アンケート調査（12～2 月）
- 28 年度報告書作成、事業報告会（1～3 月）

## Ⅱ 研究経過

### 1 地域素材の収集・選定

千代田区についての基礎的な知識を深めるため、さまざまな情報、資料により地域素材を収集する。千代田区の自然、歴史、文化など、千代田区の小学生が学習する内容をふまえ、さらに地域に興味・関心の喚起を図ることができるよう、検定問題作成のための素材を選定する。

#### \* 千代田区についての主な情報源

##### ○千代田区ホームページ

千代田区の歴史・文化や行政、著名な建築物、年間行事予定などが示されている。

##### ○千代田区教育委員会『社会科副読本 わたしたちの千代田区』2014

千代田区小学生（中学年）に社会科副読本として配布される。区の概要、歴史・文化等が教材として示されている。

##### ○千代田区区民生活部編『千代田まち事典－江戸・東京の歴史を訪ねて－』2005

千代田区の歴史・有名な建築物などがエリア別に記されている。

##### ○千代田区観光協会企画・奥野かるた店監修『千代田区“川柳”絵葉書かるた』2014

千代田区観光協会企画によって作成された、区内の観光名所や事業などが記載された川柳かるたである。川柳は全国から寄せられた500句以上の中から選定した44句で、絵葉書としても使用できるよう取札、絵札が葉書サイズとなっている。

##### ○各種パンフレット

- ・千代田区観光協会「千代田区あるき地図マップ&ガイド」
- ・千代田区観光協会「千代田区まちマップ」
- ・千代田区「千代田区文化芸術イベントカレンダー」
- ・千代田区立図書館「千代田区ゆかりの文学者」
- ・神田古書店連盟「JINBOCHO 古書店 MAP2017」 他多数

これらの資料を、千代田区立図書館、千代田区観光協会等から入手し、千代田区の地域性について知るところからはじめた。

千代田区には豊かな歴史・文化・自然があり、区をとらえる視点は多く存在する。「検定問題」を作成するにあたり、まずは児童にとって身近で親しみのある「建物」「祭り」に視点を絞ることとした。「建物」「祭り」を取り上げたのは、児童の生活に身近で、実際に目

にしたり体験したりできると考えられたためである。建物の例を挙げると、東京駅・国会議事堂・日本武道館・靖国神社などである。同様に、祭りの例としては、日比谷公園丸の内音頭大盆踊り大会・神田神社神田祭・神田古本祭りなどが挙げられる。

これらの素材は一覧にまとめ、千代田区地図に付箋を貼って位置の確認をしやすいしたり、歴史・文化・自然等のジャンル別にしたりして、可視化を図った。

また、小学校学区を考え、それぞれの学校の児童に関係のある素材を均等に配分するなどの配慮も行った。



## 2 情報収集

### (1) 取材・インタビュー等のスケジュール

- ・ 取材場所の事前調査（平成 27 年 9 月～）
- ・ 現地取材 1 回目（平成 27 年 12 月～）
- ・ 現地取材 2 回目（平成 28 年 7 月～）
- ・ 千代田区立お茶の水小学校 訪問（平成 28 年 8 月 22 日、11 月 11 日）
- ・ 茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 取材（平成 28 年 11 月 7 日）
- ・ 横浜市立大岡小学校研究発表会における情報収集（平成 28 年 11 月 16 日）

### (2) 取材の方法、留意点

#### ① 取材前に再度インターネット等で情報の確認をする

千代田区についての基礎的な知識を得るために、現地調査の前にインターネット等の情報を活用する。写し間違い等を防ぐため、インターネットで調べた情報はプリントアウト、書籍の場合は該当ページのコピーを行う。

#### ② 写真を撮影する

公共的な建築物などの撮影に際しては、撮影許可が必要な場合もあるため、事前に許可を得



ておく。

撮影にあたっては、同じ建物でもさまざまな角度で写真を撮影し、問題作成の際に適した写真が使用できるようにしておく。写真撮影は、夜間ではなく晴天の日中が適している。

また、個人情報保護に配慮して、正面からの表情は写り込まないように注意する。



### ③ インタビューを行う・パンフレットを収集する

現地取材ならではのよさが生かせるよう、事前に調べた情報を元に、担当者などにインタビューを行う。取材場所のパンフレットなどを参考資料として収集する。

## (3) 研究協力者、研究校への取材

### ① 千代田区立お茶の水小学校 訪問（平成 28 年 8 月 22 日）

平成 28 年 8 月 22 日、千代田区教育委員会の紹介をいただき、お茶の水小学校校長 浅川宏先生に取材を行う。地域に根付いている独自の文化や、児童が日ごろどのような場所に関わりがあるのかを把握するため、助言、指導を受けた。町内会や祭りと小学校との交流活動や千代田区小学校の学校行事、千代田区の地形、教材化にあたっての課題等を受け、作成した検定問題を客観的に見直すこととした。

### ② 茨城県教育委員会生涯学習課への取材(平成 28 年 11 月 7 日)

郷土検定の実践的な先行事例として、茨城県教育庁生涯学習課が主催する「いばらきっ子郷土検定」を取り上げた。茨城県では、楽しみながら県の伝統や文化等を学ぶことができるよう「いばらきっ子郷土検定」を中学 2 年生対象に実施している。

いばらきっ子郷土検定の作成方法や問題作成において注意すべき点などについてインタビューを行った。また、担当の大槻氏に、作成途中である「千代田区子ども検定」についてご意見、アドバイスをいただいた。



茨城県教育庁生涯学習課を訪問

③ 横浜市立大岡小学校 研究発表会(平成 28 年 11 月 16 日)

他地域で行われている地域学習について調査するため、研究発表会を参観する。地域学習における情報収集の方法や資料の扱いについて取材を行う。

### 3 検定問題の作成

取材(写真・インタビュー・パンフレット)をもとに問題を作成する。

選定した地域素材について、千代田区児童に最も伝えたい事柄を吟味し、問題作成の視点を定めることが必要となる。そのため、同じ素材であっても、検定問題は複数作成し、検討材料とするようにした。

「千代田区子ども検定おためし版」では、表に問題と選択肢、裏に回答と解説という構成で冊子を作成するために、写真は問題ページと解説ページに必要となる。写真が入手できない場合はイラストでもよいこととする。児童に内容が伝わるよう、わかりやすい表現を心がける。「おためし版」の対象は小3から小6児童であるため、小3児童が読めるよう漢字にルビを振る。

また、検定問題の内容を印象づけるため、各問題に「ここで一句」を付加した。これは、大学の授業で俳句作りを行っていることを活用したものである。

なお、検定問題作成の経過については、「Ⅲ 検定問題作成の実際」の中で具体例を示し述べることとする。





\* 検定問題の例 (文中のルビは省略)

【問題】

「東京の桜が咲きました」というニュースは、その土地の基準となる特定の木の状態を見て発表されています。その基準となる木のことを「標本木」といい、47都道府県すべてで決められています。では、東京都の標本木はどこにあるでしょう。

- ① 皇居
- ② 北の丸公園
- ③ 靖国神社
- ④ 日枝神社

【正解】

- ③ 靖国神社



【解説】

靖国神社にあるソメイヨシノが東京の標本木とされています。5～6輪咲くと開花、8割が咲くと満開となります。一般の人でも自由に見ることができる桜なので、みなさんも実際に見に行つて「東京の桜はいつ咲くのかな」と確かめてみてくださいね。

ここで一句

五輪咲き春のおとずれ知らせてる





#### 4 検定問題の検討

作成した問題を複数人で繰り返し検討し、最終的に「おためし版」10問で使用するものを選別する。10問という限られた問題数の中で児童に最も伝えたい内容は何かを考え、問題数を絞っていく。また、問題文や解説も内容とともに表現を練り直し、良質な問題へと改良を重ねる。



##### ○ 問題選別のための観点

- ・ 児童の生活に密着し、興味を喚起できる内容であるか
- ・ 問題の難易度は適切か
- ・ 児童が実際に目にしたり体験できたりする内容であるか
- ・ 千代田区に愛着を感じることでできる問題であるか など

検定問題の検討に当たっては、平成28年11月11日に千代田区立お茶の水小学校校長浅川宏先生を再訪し、問題選別についての助言もいただいた。現時点で絞り込んでいた21問それぞれについて、千代田区の児童に関わりが深い内容であるか、素材に対する問題の方向性は正しいかなどを中心に助言をいただくことができた。

問題の検討や改良を繰り返し、「千代田区子ども検定おためし版」として選定した10問は以下の通りである。

##### ○ 千代田区子ども検定おためし版 10問

- ① 千代田区歌の歌詞
- ② 東京駅の丸の内駅舎・南北ドームのデザイン
- ③ 東京の標本木の場所
- ④ 錦華小学校（現在のお茶の水小学校）出身の人物
- ⑤ 神田神保町の古書店の数
- ⑥ 日本武道館の屋根の形
- ⑦ 北の丸公園の天然記念物
- ⑧ 千代田区で行われている日本三大祭り

- ⑨ 国会議事堂の工事にかかわった人数
- ⑩ 佐久間公園が発祥の地となっている事柄

## 5 検定問題冊子の作成

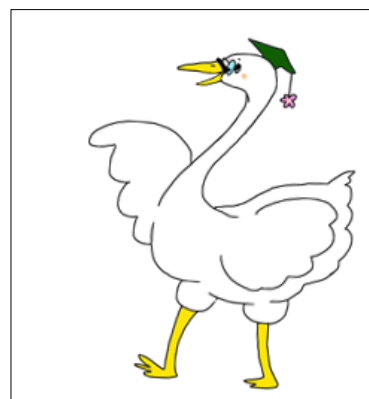
検定問題のページ構成は、これを解く側に立ち、問題のページを繰り返して答えがわかるという配置にしてより興味が高まることを意図した。

実際の冊子の大きさ（A5）で作成した際に、見やすさを第一に、文字の大きさ・太さ、書体を考え、ページ全体の行間などにも配慮した。これまでに撮影した写真を配置することにより、「この場所には行ったことがある」といった興味が感じられるようにした。

また、検定問題には、地名、人物名などの固有名詞が多く使われ、同時に漢字表記も多くなるので、ルビを振り、抵抗なく読むことができるようにした。使用する漢字についても、固有名詞以外は「学年別漢字配当表」に照らして小学校3年の児童が読めるようルビを振ることや、平易な表現にすることなど、検定問題に気軽に取り組むことができるよう配慮した。

- 「千代田区子ども検定おためし版」のマスコットキャラクター「ハクチョ博士」

「ハクチョ博士」は、「千代田区子ども検定」のためにデザインしたマスコットキャラクターである。千代田区の鳥ハクチョウを物知りの博士に見立てた。緑色の角帽は、区の木マツを表している。また、角帽の先についているのは、区の花サクラとなっている。



「子ども検定おためし版」には、ハクチョ博士が回答のページに登場し、興味・関心を高める一言を添えている。

- 「検定」の判定（自己評価）

「子ども検定おためし版」では、巻末に「千代田区大好き度をはかってみよう！」というページを特設している。

10問正解は「大好き度 100%」、9～7問正解は「大好き度 80%」のように、大まかな目安ではあるが、検定を受けた後の判定ができるようにしている。

なお、「千代田区子ども検定おためし版」については、資料編を参照されたい。

### Ⅲ 検定問題作成の実際

#### 1 検定問題作成の視点を定める

問題作成にあたり、「その素材の何に視点を定めるか」が重要となる。以下の【問題A】、【問題B】は、どちらもゼミ生が作成した東京駅の問題である。

<p><b>【問題A】</b></p> <p>歴史と風格が感じられる赤レンガ造りの建物でおなじみの東京駅。駅の面積がとても広いことで有名ですが、どのくらいの広さでしょうか。</p> <p>① 東京ドーム 3.6 個分 ② 東京ドーム 4.6 個分 ③ 東京ドーム 5.6 個分 ④ 東京ドーム 6.6 個分</p> <p><b>【正解】</b></p> <p>① 東京ドーム 3.6 個分</p> <p><b>【解説】</b></p> <p>東京駅の丸の内駅舎は、重厚な赤レンガ造りの3階建てで、建物の長さは335m、最頂部は35mです。</p> <p>東京駅はプラットホーム(のりば)の数は日本一多い駅で、新幹線が地上5面10線、在来線が9面18線(地上5面10線・地下4面8線)、地下鉄が地下1面2線をもっています。東京駅の延床面積は約18万㎡といわれており、これは東京ドーム3.6個分の広さです。</p>	<p><b>【問題B】</b></p> <p>東京駅のシンボルにもなっている南北のドーム。復元工事により、注目を集めています。中から天井を見上げると、八角形の天井の四隅には復刻されたレリーフが見られます。これは何のレリーフでしょうか。</p> <p>① 星座 ② 干支 ③ 東京駅のキャラクター ④ 歴代総理大臣</p> <p><b>【正解】</b></p> <p>② 干支</p> <p><b>【解説】</b></p> <p>南北ドーム内の8か所のコーナーに、その干支の方位に従って十二支のうち八支(うし、とら、たつ、み、ひつじ、さる、いぬ、い)の彫刻が配置されています。この干支のレリーフは、単なる飾りではなく方角を示しています〔うし(北北東)、とら(東北東)、たつ(東南東)、み(南南東)、ひつじ(南南西)、さる(西南西)、いぬ(西北西)、い(北北西)]。</p> <p>彫刻されていない、ね(北)、う(東)、うま(南)、とり(西)は、東西南北を表しています。</p>
---	---

【問題A】は東京駅の広さを問う問題、【問題B】は東京駅にある南北ドーム内のレリーフ（彫刻）を問う問題である。

東京駅と言えばだれもがその姿を思い浮かべることができるであろう、日本の中心となるターミナル駅である。そこで、東京駅についての問題を作成するにあたり、「東京駅の何を伝えたいか」を吟味することがより重要となってくる。検定問題においては、問題を通して児童に自分が住んでいる地域に誇りや愛着を持ってもらうことを目的としている。愛着を持ってもらうには、児童自身が問題を通して「初めて知った」という驚きや発見、「実際に行ってみたい！」という楽しさを感じてもらうことが大切になる。

このような発見や楽しさがより身近に感じられる問題であるとして、【問題B】の東京駅にある南北ドーム内のレリーフ（彫刻）を問う問題が「千代田区子ども検定ためし版」として選択された。

以下の【問題C】、【問題D】はイギリス大使館に関する問題である。いずれもゼミ生が作成している。

<p><b>【問題C】</b></p> <p>たくさんの大使館が集まる千代田区ですが、観光協会もおすすめる、桜の名所として知られる大使館はどこでしょうか。</p> <p>① イギリス大使館 ② ポルトガル大使館 ③ ベルギー大使館 ④ メキシコ大使館</p> <p><b>【正解】</b></p> <p>① イギリス大使館</p> <p><b>【解説】</b></p> <p>明治5（1872）年に千代田区一番町に設置されたイギリス大使館。敷地内には50本の</p>	<p><b>【問題D】</b></p> <p>皇居の半蔵門近くの内堀通り沿いに面する桜の名所のイギリス大使館。政界・文化・教育などのトップの方が招待される日はいつでしょう。</p> <p>① 新年 ② イースターマンデー ③ エリザベス二世女王陛下の誕生日 ④ ウィリアム王子の誕生日</p> <p><b>【正解】</b></p> <p>③ エリザベス二世女王陛下の誕生日</p> <p><b>【解説】</b></p> <p>イギリス大使館では、毎年エリザベス二世女王陛下の誕生日（4月21日）または公式</p>
---	--

<p>桜の木があります。明治 31 (1898) 年に当時の英国公使アーネスト・サトウが大使館前に桜を植えました。そのため、大使館周辺にも桜並木が広がっています。</p> <p>その後、千代田区観光協会のホームページにも載るほど美しい桜の名所として春は賑やかな桃色に包まれるようになったイギリス大使館。</p> <p>ぜひ、一度桜の季節に訪れてみてはいかがでしょうか。</p>	<p>誕生日(6月第2土曜日)に大使主催の祝賀パーティーが開催されます。</p> <p>一般の方に向けて、大使館主催のイベントやキャンペーンも実施されています。最近では「英国政府観光庁主催 女子旅 in 英国大使館パーティー」といったイベントも開催されました。パーティーに参加できる素敵な企画もあり、一般の人にも大使館を訪問するチャンスがあります。</p> <p>建物はいつでも見ることができます。大使館の建物は、灰白色を基調とし、大使館の旗は、ユニオンジャックの中央に王冠を配した外交旗が掲げられていて本当にイギリスにいるかのような感覚になります。</p> <p>ぜひ一度足を運んでみてください。</p>
--	---

【問題C】は桜の名所である大使館を問う問題、【問題D】はイギリス大使館が開放される日を問う問題である。ゼミ生が作成した問題の多くは「〇〇(場所)の□□」を問う形式であったが、【問題C】はイギリス大使館(場所)が正解となるように作問しており、新しい発想による問題である。

どちらも児童にとって発見がある問題となっているが、【問題D】の解説を読むと、イギリス大使館開放の日是一般人が気軽に立ち入ることができないことがわかる。イギリス大使館に入ることができなければ、児童が検定問題を通して得た興味や関心も半減してしまうことが容易に想像できる。児童の立場に立ってより問題を楽しむことができるという観点から、【問題C】の桜の名所である大使館を問う問題を選定した。

## 2 検定問題を児童の側から改良する

問題の内容は適切であっても、問題文や解説文が難しすぎるとは、児童に千代田区の魅力が伝わらなくなることにも考えられる。

以下の【問題E】は、ゼミ生が作成した最高裁判所の問題である。

**【問題E】**

最高裁判所では、平成 28 年夏に小・中学生と保護者を対象とした「夏休み子ども見学会」が開催されました。そこでは、大ホールを見学することができますが、大ホールの広さは千代田区の複合施設さくら会館にある体育館と比べてどれくらいでしょう。

- ① 同じくらい
- ② 半分以下
- ③ 2 倍以上
- ④ 3 倍以上

**【正解】**

- ③ 2 倍以上

**【解説】**

最高裁判所では、大ホール以外にも大法廷・小法廷も見学することができます。特に大ホールは体育館と比べても 2 倍以上あり、床面積が 890 平方メートルあります。床には、建物竣工の年が刻まれた定礎石が埋め込まれています。定礎石の下には、定礎の辞を記した銘板や、庁舎新営の記録が納められています。

最高裁判所の大ホールの広さを、千代田区複合施設さくら会館にある体育館と比べて問う問題である。一つの問題で千代田区 2 か所についての知識を得ることもでき、またこれだけ広いのだという想像もしやすいため、単に広さを問うだけの問題に比べれば興味を喚起することができる。しかし、「さくら会館にある体育館」とは、児童全員が実際に行ったことのある体育館なのかという疑問も残る。

また、「竣工」「定礎石」「銘板」など、児童にとって極めて難しい用語も使われているという問題もある。

こうした検討を経て、【問題E その2】のように問題を改めた。

**【問題E その2】**

最高裁判所では、平成 28 年夏に小・中学生と保護者を対象とした「夏休み子ども見学会」が開催されました。応募した人の中から抽選で選ばれると大法廷・小法廷・大ホールを見学したり、実際に法服を着たり、最高裁判官に質問したりできるという企画が行われました。

見学をすることができる場所の一つとして大ホールがありますが、これはみなさんが毎日過ごしている小学校の教室いくつ分の大きさでしょうか。

- ① 1 個分
- ② 5 個分
- ③ 10 個分
- ④ 15 個分

**【正解】**

- ④ 15 個分

**【解説】**

最高裁判所の中でも特に大きな大ホールは、なんと教室 15 個分ほどの大きさがあります。機会があれば見学会に応募して、その大きさを実際に目で見てみてはいかががでしょうか。

このように、広さを比べる対象を、児童全員が同じように想像することのできる「教室」に改良し、また、必要な情報を取捨選択した。

問題文には、「夏休み子ども見学会」についての説明が詳しく述べられている。これは、最高裁判所が身近なものとして感じられるようになることを意図したものである。また、解説文にも難しい表現は使わずに、児童にとって読みやすく分かりやすいシンプルな問題に改良した。

以下の【問題F】は、ゼミ生が作成した国会議事堂の問題である。

**【問題F】**

国会議事堂は、当時のお金で約 25736000 円を投じて建築されました。長さ 206.36 メートル、奥行きは 88.63 メートルもあります。中央塔の高さは 65.45 メートルです。

さて、区の人口は約 4 万 8 千人ですが、国会議事堂の工事に従事した人は、千代田区の人口の何倍でしょう。

- ① およそ 2 倍
- ② およそ 10 倍
- ③ およそ 50 倍
- ④ およそ 100 倍

**【正解】** ③ およそ 50 倍

**【解説】**

国会議事堂の工事に従事した人は、延べ 254 万人です。現在の千代田区の人口の 50 倍もの人々が工事を行ったなんて、驚きですね。

国会議事堂の工事に従事した人数を千代田区の人口と比べて問う問題である。比べて問う形式にすることにより、「たくさんの人が工事に関わったのだ」という実感をもつことができる。しかし、区の人口とは児童が実際に想像できる人数なのかという疑問も残る。また、50 倍とは数字が大きすぎて想像しづらいのではないかと、検定問題全体のバランスを考えると、この問題のように比較して答える問題が多すぎるのではないかとといった問題も見出され、【問題F その2】のように改めることとなった。

**【問題F その2】**

国会議事堂は、完成当時日本一の高さを誇り、永田町の高台に美しいみかげ石でつくられた議事堂が「白亜の殿堂」と賞賛されました。17年の歳月をかけ完成した国会議事堂ですが、その工事に関わった人は何人だったでしょう。

- ① 延べ 100 万人
- ② 延べ 150 万人
- ③ 延べ 200 万人
- ④ 延べ 250 万人



**【正解】**

- ④ 延べ 250 万人

**【解説】**

17年間で、国会議事堂の工事に従事した人は、延べ 254 万人です。千代田区の人口はおよそ 4 万 8 千人ですから、それに比べるととても多くの人が工事に参加していたことが分かります。現在の国会議事堂は、大正 9（1920）年 1 月に工事を始め、17 年の歳月をかけて昭和 11（1936）年 11 月に完成しました。昭和 11 年 12 月 24 日に召集された第 70 回帝国議会から使用され、現在にいらっています。

工事に従事した人数を比べて問うのではなく、人数そのものを問う問題に改めた。区の人口は解説文に入れ、多くの人が関わったのだと分かるように工夫した。

初案の問題文には、建設するためにかかった費用、建物の高さや奥行などのさまざまな情報が盛り込まれていたが、問われていることとは関係がないことから、情報を整理し、数字が多くて惑わされそうであった文章を簡潔にした。解説文には、国会議事堂についての情報を加え、1 問で多くのことが学べるように仕上げた。

さらに児童にわかりやすくなるよう改良を重ねた最終版は【問題 F その 3】である。

**【問題 F その 3】**

国会議事堂は、完成当時日本一の高さを誇り、みかげ石でおおわれた白くて美しい姿から「白亜の殿堂」ともよばれました。17 年という期間をかけ完成した国会議事堂ですが、その工事に関わった人はおよそ何人だったでしょう。

- ① のべ 100 万人  
② のべ 150 万人  
③ のべ 200 万人  
④ のべ 250 万人

**【正解】**

- ④ のべ 250 万人

**【解説】**

17年間で、国会議事堂の工事に関わった人は、のべ 254 万人です。千代田区の人口は

およそ 48000 人ですから、それに比べると非常に多くの方が工事に参加していたことが分かります。

現在の国会議事堂は、大正 9（1920）年 1 月に工事を始め、17 年かけて昭和 11 年（1936）年 11 月に完成しました。昭和 11 年 12 月 24 日の第 70 回帝国議会から使用され、現在にいたっています。

「歳月」、「従事した人数」を児童によりわかりやすくするため「期間」「工事にかかわった人」のように表現を変更し、西暦と和暦の入れ方を統一するなどの改良を行った。「わかりやすさ」の目安は、小学校 3 年生が理解できる表現、表記としたが、固有名詞が多いことや、言い換えるとかえってわかりにくくなってしまいう用語等があることなど、問題作成において克服すべき課題も明確になった。

## Ⅳ 千代田区内小学生に実施したアンケート調査と結果

### 1 アンケート調査

#### (1) 対象者

千代田区立小学校 8 校にご協力いただき、3～6 学年の全児童に「千代田区子ども検定おためし版」を配布した。アンケートは、各校各学年 1 学級で実施した。

#### (2) 回収したアンケート回答数（平成 29 年 1 月 10 日現在）

3 学年 127 名・4 学年 160 名・5 学年 139 名・6 学年 133 名 計 559 名

#### (3) アンケートの内容

以下のアンケート用紙を児童に配布し、回答を得た。

アンケートは無記名で、小学校名、学年のみを記入することとした。

## 「千代田区子ども検定(おためし版)」アンケート

「千代田区子ども検定(おためし版)」は楽しかったですか。

みなさんにとって、さらに楽しく役に立つ検定問題を作っていきたいと考えていますので、感想を聞かせてください。

小学校	年
-----	---

1 千代田区子ども検定は、楽しかったですか。1つえらんで、○をつけてください。

1 楽しかった    2 まあまあ楽しかった    3 あまり楽しなかった    4 楽しなかった

2 正解だった問題はどれですか。問題の番号に○をつけてください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

3 むずかしかったのはどれですか。問題の番号に○をつけてください。(いくつでもよい)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

➡ むずかしかったのは、なぜですか。<sup>れい</sup>(例：言葉がわからなかったから、初めて聞いたから など)

--

4 千代田区についてはじめて知ったことはありましたか。○をつけてください。

1 はい                      2 いいえ

➡ 「1 はい」と答えた人は、はじめて知ったことを 1つ 書いてください。

--

5 千代田区子ども検定のキャラクター「<sup>はかせ</sup>ハクチヨ博士」をどう思いますか。

--

6 千代田区子ども検定の本について思ったことを書いてください。

--

ご協力、ありがとうございました。 共立女子大学家政学部児童学科 本澤ゼミ一同

## 2 アンケートの結果と考察

ここでは、紙幅の都合から、特筆すべき結果を得られた調査問題について、考察をまとめることとする。

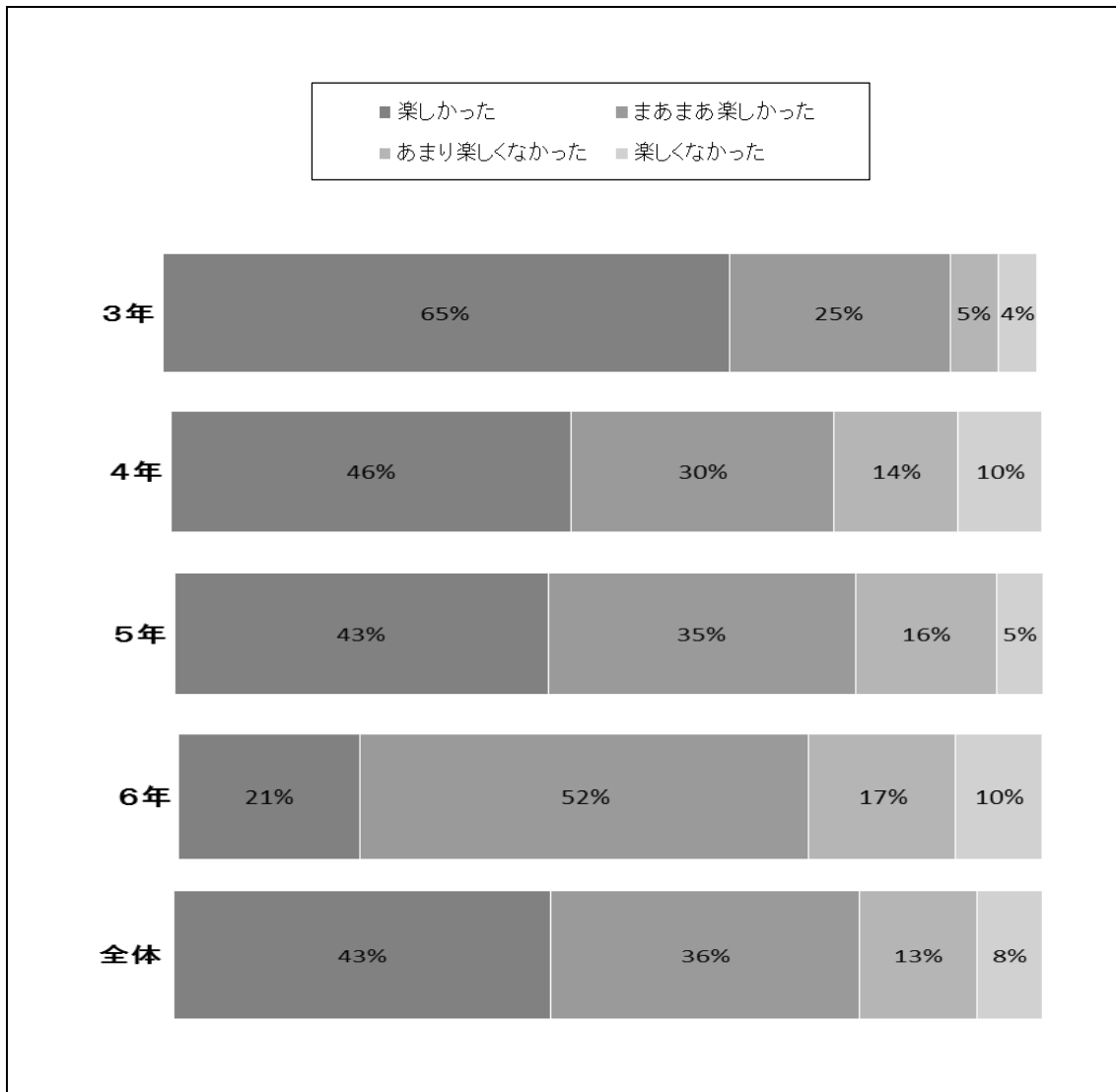
### (1) 検定問題に対する感想（問1）

各学年の回答は、（表1）に示すとおりである。

「楽しかった・まあまあ楽しかった」と答えた児童の割合が全体の79%を占める。千代田区について興味をもって学ぶという目的はほぼ果たせたと言ってよいだろう。

学年が上がるにつれて、肯定的な意見の割合が減っていることが検討課題である。

（表1） 「千代田区子ども検定」は楽しかったか



## (2) 検定問題の正答率（問2）

各学年での問題ごとの正答率は、（表2）に示すとおりである。

（表2） 各学年・問題ごとの正答率（％）

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	平均
3年	65	40	61	60	46	50	46	48	59	71	<u>55</u>
4年	72	58	65	69	58	66	57	69	56	71	<u>64</u>
5年	83	53	59	63	53	68	60	73	57	78	<u>65</u>
6年	89	60	71	64	47	68	45	66	53	77	<u>64</u>
平均	<u>77</u>	53	64	64	52	63	<u>72</u>	65	56	<u>74</u>	62

### ①学年による正答率の変化

3学年が55%、4学年から6学年は64～65%である。4学年以上は、学年が進んでも正答率が横ばいの状況である。

地域における文化、歴史などについての情報は、その地域で生活していればある程度獲得できるものと考えがちである。しかし、この結果を見る限り、地域に関する情報獲得が小学校上学年においてあてはまらないことがわかる。もちろん、今回は検定問題数がわずか10問であったため断定することは避けなければならないが、情報収集力、行動力ともに大きくのびると考えられるこの時期に、地域に関する情報が増加していない児童の現状をうかがい知ることはできるであろう。その背景には、地域との結びつきが希薄になった現代の子どもたちの生活も見えてくるようである。

こうした状況であるからこそ、「地域素材の教材化」を推進する意義がある。「検定問題」はその一つの方策であるが、他のあらゆる方策により、児童が地域への愛着や誇りを実感できるよう働きかけていくことが必要である。これは、地域で子どもたちの現状を明確に共有し、地域をあげて取り組むべき重大な課題である。

### ②検定問題と正答率

正答率が70%を超える問いは、1、7、10である。

問1（千代田区歌）の問題に関しては学年が上がるにつれ正答率も高くなり、6学年では89%を示している。千代田区歌にふれる回数も増え、歌詞を覚えてきているために正

答率が高くなったと考えられる。

また、問 10（佐久間公園）は、各学年の正答率が 70%を超えている。ラジオ体操は児童にとって身近なものであるため、佐久間公園がその発祥の地であるという情報も容易に獲得できるのであろう。

これに対して、問 7（北の丸公園のヒカリゴケ）は、学年による正答率にばらつきがあり、学年と正答率に相関関係が見られなかった。これは、北の丸公園には親しんでいる児童も、天然記念物のヒカリゴケには関心や知識がもてず、回答にあたっては勘に頼らざるを得なかったためと考えられる。問題自体が児童の生活との接点を欠いていると考えられるため、出題のあり方を今一度検討しなければならないだろう。

### (3) 児童が感じた検定問題の難易度（問 3）

（表 3）は、児童が 10 問の中から「難しかった問題」として選択（複数回答可）した割合を示している。

（表 3） 児童が感じた検定問題の難易度（%）

	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
3 年	35	58	45	43	40	49	56	46	40	32
4 年	39	56	41	47	51	45	66	37	56	38
5 年	10	43	40	40	50	33	51	25	43	20
6 年	10	38	27	40	45	31	57	33	40	23

「難しい」とは主観ではあるが、児童が問題を解く中で感じた抵抗や困難の程度を数値化したのがこの（表 3）である。

正答率の高かった問 1（千代田区歌）については難易度も当然低くなっている。しかし、偶然に正答率が高くなった問 7（北の丸公園のヒカリゴケ）については、「最も難しい問題」として認識されていることがわかる。これはすでに(2)で述べたように、児童の生活や興味・関心とかけ離れている内容であるため、難しさや抵抗が強く感じられるためと推察される。

検定問題は、学力を測定するテストではない。正答とならなくても検定問題で取り上げられている内容に興味・関心が多少なりとも高まればよいのであるが、児童の中には検

定問題がテストの延長線上にあるものと受けとめ、何らかの抵抗や困難を感じている者もいることが考えられる。そのため、今後は、「千代田区子ども検定」の趣旨を児童にわかりやすく伝え、ここで得た知識や情報を生活に生かしていこうとする意識、意欲を喚起できるようにしていく必要があるだろう。

#### (4) 千代田区について初めて得た情報（問4）

アンケート問4において、千代田区について初めて知ったことがあるかどうかをたずねた結果が（表4）、問4において「はい」と答えた者に、最も印象に残る情報を提供した問題を選択してもらった結果が（表5）である。

（表4）千代田区について初めて知ったことの有無（％）

	はい（ある）	いいえ（ない）
3年	81	19
4年	79	21
5年	79	21
6年	80	20

（表5）千代田区について初めて知ることができた問題（％）

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
3年	7	14	7	9	13	13	15	5	10	6
4年	20	11	4	11	10	7	17	2	9	9
5年	5	17	8	22	9	12	13	2	6	8
6年	1	6	6	30	13	10	19	2	5	8
平均	9	12	6	<u>17</u>	11	10	<u>16</u>	<u>3</u>	8	8

3学年から6学年まで、「千代田区について初めて知ったことの有無」（表4）の結果がほぼ同一となった。すなわち、どの学年においても約8割の児童がこの検定によって初めて得た情報があったと答えている。学年間に差が認められないのは、学年が進むにつれて自己評価が明確になってくるためと考えることができる。

(表5)は、千代田区について初めて知ることができた問題を選んだ結果である。ここでは1問だけ選択して回答することとしたため、児童にとって最も印象に残る情報を提供している問題は、問4(現お茶の水小学校・夏目漱石)と問7(北の丸公園のヒカリゴケ)、さほど印象に残らなかったのが問8(日本三大祭・神田祭)ととらえることができる。この結果から明確な判断はできないが、歴史上の人物、耳新しい固有名詞などには情報を獲得しようとする意欲が高まることが期待される。千代田区の豊かな歴史、文化を生かし、児童の知的好奇心を刺激するような検定問題を提供することが効果的であると考えられる。

#### (5) 検定問題への親しみやすさ(問5)

「千代田区子ども検定」のマスコットキャラクターとして「ハクチョ博士」についてどのように感じているかについて調査した。記述による回答の8割以上が肯定的な感想(「かわいい」「おもしろい」「物知り」等)であった。

検定問題に対する抵抗を取り除き、親しみを感じてもらうためにマスコットキャラクターを特設したが、その効果は認められたと考えてよいだろう。

#### (6) 全体的な感想など(問6)

全体的な感想については自由記述としたが、「おもしろかった」「難しかった(が、学べてよかった)」「(冊子の中で使われている)写真がきれいだった」「もっと問題を解いてみたい」等、検定問題に対する興味、満足、期待等が記述されていた。「おためし版」は10問だけの構成であったため、物足りなさを感じた児童もいるようであったが、ここでの反応をふまえ、今後の検定問題作成に生かしていきたい。



## V 研究の成果と課題

「千代田区子ども検定」の第一次案として、「おためし版」を作成・発信することができた。作成・発信の過程および結果から、以下の点を明らかにすることができた。

### 1 地域素材の教材化、発信の必要性

「千代田区子ども検定おためし版」の正答率からは、学年が進んでも地域に関する情報獲得が充実するとは限らないことがわかった。

「おためし版」では問題数が10問と極めて少ないため断定することはできないが、情報収集力、行動力ともに大きくのびると考えられるこの時期に、地域に関する情報が増加していないとするならば、児童が地域素材にふれる機会を積極的に設け、地域への愛着や誇りを実感できるよう働きかけていくことは極めて重要である。「地域素材にふれる機会」は多様に想定することができるが、「千代田区子ども検定」を作成・発信していく試みもまた、ささやかながらその機会の一つとして意義あるものと考えられるだろう。

### 2 検定問題作成の視点

「おためし版」の作成を経て、検定問題の作成においては次の視点が必要であることが改めて確認された。

#### (1) 検定問題に盛り込む情報の質

ゼミ生が作成した検定問題を検討していく中で、「何を問うか」は常に課題となったことである。同じ対象を取り上げるにしても、何にスポットを当てて問題を構成するかによって、検定問題としての質の良し悪しが変わる。情報を提供する側に十分な知識が必要であることから、検定問題発信に向けて責任ある情報収集に努める必要がある。

#### (2) 児童の側に立った検定問題作成

今回作成した検定問題の中で、児童の生活や学習の実態とかけ離れている問いにおいては児童が勘に頼って回答していると思われる状況も見られ、大きな反省点であった。問題作成に当たっては、単なる情報提示にとどまることなく、児童が楽しみながら取り組める内容にしていく必要がある。そのためには、千代田区観光協会等との接点を増やしたり地域のイベントに積極的に参加したりして、地域の情報を入手する努力を重ねることが大切であろう。児童の日常生活や学習などに密着した問題作成には、作成者自らが地域に親

しみをもつことが不可欠である。

### (3) 検定問題における固有名詞、難語句等の提示方法

地域素材には、地名や人名などが多く含まれるが、これが児童にとって大きな抵抗になる。また、児童にわかりやすい言葉に言い換えようとする、反対にわかりにくくなってしまうということもある。「おためし版」は、小学校3学年以上の児童を対象としたため、「学年別漢字配当表」に照らして3学年の児童が読めるようルビを振るなどしたが、児童の知識や語彙にも配慮した問題作成が必要である。

検定問題の中で提示した写真、特設したマスコットキャラクター「ハクチョ博士」などは、児童にとって「わかりやすさ」とともに「親しみやすさ」も感じられるものであったようである。これらのさらなる活用も検討したい。

## 3 「検定問題」の趣旨を明確化することの必要性

「千代田区子ども検定」は、いわゆる「ご当地検定」のジュニア版であり、地域の文化、歴史、自然などが問われるものである。児童にとっては、社会科の地域学習の一環と考える者もいるだろう。しかし、検定問題は、学力を測定するテストではない。検定問題で取り上げられている内容に興味・関心が高まることを意図するものであるが、児童の中には検定問題がテストの延長線上にあるものと受けとめ、何らかの抵抗や困難を感じている者もいるようである。

そのため、今後は、「千代田区子ども検定」の趣旨を児童にわかりやすく伝え、ここで得た知識や情報を生活に生かしていこうとする意識、意欲を喚起できるよう改善する必要がある。

以上、「千代田区子ども検定おためし版」の作成・発信を通して明らかになった成果と課題について整理した。

今年度の研究の成果及び課題をふまえ、千代田区の豊かな歴史、文化を素材に、児童の知的好奇心を刺激することのできる検定問題を提供していきたいと考える。

## 参考文献

- ・千代田区区民生活部編『千代田まち事典－江戸・東京の歴史を訪ねて－』2005
- ・千代田区教育委員会『社会科副読本 わたしたちの千代田区』2014
- ・千代田区観光協会企画・奥野かるた店監修『千代田区“川柳”絵葉書かるた』2014
- ・千代田区観光協会『千代田あるき地図マップ&ガイド』
- ・千代田区ホームページ <https://www.city.chiyoda.lg.jp/index.html>
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」2008
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」2008
- ・伊藤貴啓「小学校社会科における地域事象の教材化と教師の力量形成(Ⅰ)－地域農業学習の授業実践分析から－」愛知教育大学研究報告、pp.191-200、2012
- ・秋沢富五郎、原昇「地域素材の教材化に関する基礎研究－素材の掘り起こしについて検討－」神奈川県立教育センター研究集録6、pp.7-12、1987
- ・伊藤重男「『ご当地検定』に関する実証研究：財団法人地域活性化センター『地域の魅力を発信するご当地検定調査研究報告書』を用いた実証的分析」名古屋経営短期大学紀要 51、pp.1-13、2010
- ・京都商工会議所編『新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック』淡交社、2016
- ・京都市教育委員会『歴史都市・京都から学ぶ ジュニア京都検定テキストブック(10版)』京都新聞出版センター、2015
- ・鎌倉商工会議所監修『新版 鎌倉観光文化検定公式ガイドブック』かまくら春秋社、2011
- ・秋田県商工会議所連合会『秋田ふるさと検定公式テキスト最新版』秋田文化出版、2016
- ・茨城県立歴史館編集『輝く茨城の先人たち』茨城県生活環境部、生活文化課、2016
- ・「いばらきっ子郷土検定ウェブサイト」[www.ibaraki-kentei.jp/](http://www.ibaraki-kentei.jp/)
- ・ジュニアかなざわ検定実行委員会「第11回ジュニアかなざわ検定小学生版」2016
- ・島田市地域生活部地域づくり課「島田市ご当地検定【子ども編】」2015
- ・「ゆるりら、十和田子ども検定」公式HP <http://www.towda.or.jp/kodomotentei/>

## 終わりに

これまでの研究を通じた成果と課題についてはすでに述べたとおりであるが、この事業を進める中でそのほかにもさまざまな収穫を得ることができた。

一つ目は、ゼミ生の変容である。この研究に取り組むまでは、大学には通っているものの、千代田区について考えることなどほとんどなかった者ばかりである。区内のさまざまな行事などについても関心を示さなかったゼミ生が、積極的に区ホームページなどで情報を得、取材に出かけるようになった。「千代田区の地域教材」について卒業論文でさらに研究を深めようとする学生も現れ、学生の意識の向上が強く感じられるようになった。

二つ目は、千代田区教育委員会等からご協力いただくことにより、千代田区の児童の実態を知ることができたことである。ゼミ内では、当初、千代田区の「建造物」や「祭り」を中心に情報収集を進めてきたが、全国的には有名であっても、児童の生活にはさほど縁がないものもあるということに気づくことができた。自分たちが発信しようとしている情報が千代田区の小学生にふさわしいものであるか、さらに検討を重ねる必要があることが明確になったことは大きな収穫であった。今後も、地元の皆様や先生方のご意見を積極的にいただき、研究に反映させていきたいと考えている。

三つ目は、研究計画（研究のゴール）がより具体的になってきたことである。情報収集が進むにつれ、千代田区の地域素材が実に豊富であり、責任ある内容・形式で発信するには研究期間を延長する必要があることがわかった。そこで、29年度は検定問題の作成・検討に時間をあて、30年度に Web 発信するという研究計画に修正することとなった。研究計画の練り直しに伴い、研究体制も再編した。3年学生と4年学生とでペアを組み、研究成果や課題を共有できるようにするなど、ゼミもまたこの研究を通して活性化したことを感じさせられる。

今後も、千代田区小学生の地域に対する誇り、愛着を高めるべく、ゼミ生とともに千代田区の地域素材の教材化を進めていきたいと考えている。

最後になりましたが、今年度、「千代田学」を通して実践・研究を実施する貴重な機会を与えてくださいました千代田区及び研究にご理解・ご協力いただきました千代田区教育委員会、千代田区各小学校校長先生をはじめとする教職員の皆様に、心から感謝申し上げます。また、郷土検定ジュニア版の先行実践として範を示してくださいました茨城県教育庁総務企画部生涯学習課の皆様に、心からお礼を申し上げます。

# 資料編

「千代田区子ども検定 おためし版」

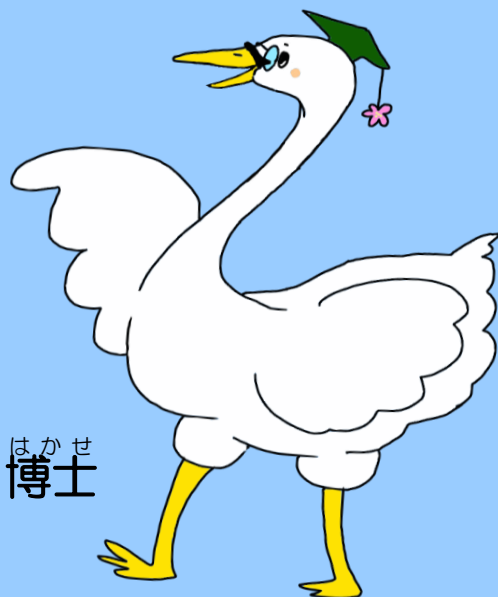
平成 28 年度「千代田学」事業

# 千代田区子ども検定

■ ■ おためし版 ■ ■

千代田区について、あなたは  
どのくらい知っているかな？  
検定で、

「千代田区大好き度」を  
はかってみよう！



ハクチョ博士<sup>はかせ</sup>

# 千代田区で学ぶみなさんへ

こんにちは！

私たちの学ぶ共立女子大学は、みなさんの小学校と同じ千代田区にあります。千代田区は、歴史や文化の豊かな東京都の中心地です。私たちは、この千代田区で学んでいながら、千代田区についてあまり知らずにいることに気づきました。

そこで、千代田区のさまざまな場所に実際に行って取材したり、さまざまな資料を調べたりすることにしました。そして、そこでわかったことを、今度は小学生のみなさんにも伝えたいと考え、「千代田区子ども検定」を作りました。お友達や家族と、検定問題を楽しく解きながら、千代田区について知って、千代田区をさらに好きになってもらえたら、とてもうれしいです。私たちと、どちらが「千代田区大好き度」が高いか、きょうそうしましょう！

この「おためし版」には、検定問題10問をのせてあります。検定を受けたら、「楽しかった」「やさしすぎるよ」「知らないことがまだまだあるんだな」など、感想や意見を教えてください。さらに楽しい検定にしていきたいと思っています。

平成28年12月

共立女子大学家政学部児童学科

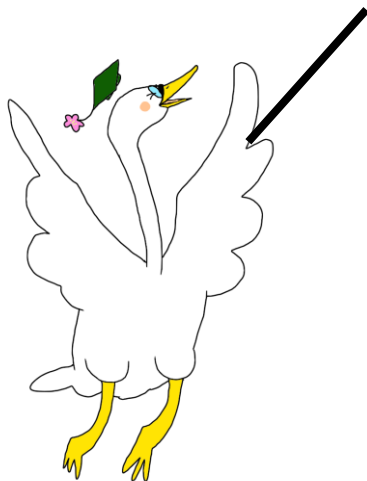
本澤ゼミ一同

# 第 1 問

次のうち、千代田区歌の歌詞に入っていない言葉はどれでしょう。

むずかしさ ★

- ① 新日本の心臓部
- ② 大東京の中心地
- ③ 千代田の城
- ④ 世界の人々



みんなも学校で  
歌っているよね!



わかったかな？



## 第 1 問の答え

### ④ 世界の人々

千代田区歌は、千代田区 10 周年の昭和 32 (1957) 年 3 月 15 日に  
制定せいていされました。

千代田区にふさわしく、「官庁かんちょう」「濠ほり」「帝みかどの宮居みやい」「千代田の城」  
「オフィスセンター」「テレビ塔とう」など、さまざまなけしきが  
えがかれています。「大東京の中心地」「新日本の心臓部」と、日  
本の中心であるほこりが歌われています。

作詞は佐藤春夫、作曲は山田耕筰こうさくです。山田耕筰は「赤とん  
ぼ」「待ちぼうけ」「ペチカ」なども作曲しました。



千代田区役所



皇居にある異櫓 (たつみやぐら)

ここで一句 千代田区歌 「ここを都みやこの都ぞと」

## 第 2 問

東京駅はたくさんの鉄道が行きかう大きな駅です。赤レンガでおおわれている東京駅丸の内<sup>えきしや</sup>駅舎には、八角形の形をしているドームがあります。駅舎に入り天<sup>ちやうこく</sup>じょうを見上げると、あるものを表した8つの彫刻を見ることができます。それは何をかたどったものでしょうか。

むずかしさ ★★★

- ① <sup>ようせい</sup>妖精
- ② <sup>えと</sup>干支
- ③ <sup>せいざ</sup>星座
- ④ <sup>しちふくじん</sup>七福神



東京駅 丸の内駅舎



あなたの干支は？

## 第 2 問の答え

② えと 干支

丸の内駅舎南北ドーム内の8か所のコーナーに、方角を表している彫刻ちょうこくがあります。これは単なるかざりではなく方角を表す干支を示しています。

それぞれの彫刻は、うし(北北東)、とら(東北東)、たつ(東南東)、み(南南東)、ひつじ(南南西)、さる(西南西)、いぬ(西北西)、い(北北西)を示しています。彫刻されていない、う(うさぎ)、とり、うま、ね(ねずみ)は、東西南北を表しています。



丸の内駅舎 南北ドーム内部

ここで一句 たびびと 旅人の始発・しはつ 終着 しゅうちやく 赤レンガ

## 第 3 問

「東京の桜が咲きました」というニュースは、その土地の基準となる特定の木の状態を見て発表されています。その基準となる木のことを「標本木」といい、47 都道府県全てで決められています。では、東京都の標本木はどこにあるでしょう。

むずかしさ ★★★★★

- ① 皇居
- ② 北の丸公園
- ③ 靖国神社
- ④ 日枝神社



「桜の標本木」のかんばん



ぼくのぼうしにも桜がついてるよ！



## 第 3 問の答え

### ③ 靖国神社

靖国神社にあるソメイヨシノが東京の標本木とされ、5～6輪<sup>りん</sup>咲くと開花、8割が咲くと満開<sup>まんかい</sup>となります。一般の人も自由に見ることができる桜なので、みなさんも実際<sup>じっさい</sup>に見に行って「東京の桜はいつ咲くのかな」と確かめてみてくださいね。



靖国神社「桜の標本木」

**ここで一句 5輪咲き春のおとずれ知らせてる**

## 第 4 問

千代田区にゆかりのある有名な文学者たちはたくさんいます。次の4人も、千代田区にゆかりのある人物ですが、この中で錦きん華か小学校（現在のお茶の水小学校）出身なのはだれでしょう。



むずかしさ ★★

- ① なつめ そうせき 夏目漱石（1867–1916 主な作品『吾輩は猫である』など）
- ② ひぐち いちよう 樋口一葉（1872–1896 主な作品『たけくらべ』など）
- ③ もりおうがい 森鷗外（1862–1922 主な作品『舞姫』など）
- ④ よさ の あきこ 与謝野晶子（1878–1942 歌集『みだれ髪』など）



読んだことがあるかな？

## 第 4 問の答え

### ① 夏目漱石

夏目漱石は錦華小学校（現在のお茶の水小学校）に通っていました。お茶の水小学校のそばには、夏目漱石の著書『吾輩は猫である』<sup>ちよしよ</sup>のはじめの文章が記された文学碑<sup>ひ た</sup>が建てられているので、ぜひ<sup>じっさい</sup>実際に行ってさがしてみてください。

②樋口一葉は千代田区内幸町で生まれました。③森鷗外は西神田、④与謝野晶子は現在の四番町に暮ら<sup>く</sup>していました。



お茶の水小学校にある夏目漱石の文学碑

ここで一句 漱石の足あと残すお茶の水

## 第 5 問

神田神保町にある古書店街は世界一の本の街となっています。古書の冊数は都内の約3分の1をしめるといわれるほどです。

では、神田神保町の古書店はおよそ何軒あるでしょう。

むずかしさ ★★★

- ① およそ 80 軒
- ② およそ 100 軒
- ③ およそ 120 軒
- ④ およそ 180 軒



古書店街のガードレール



こんなにあるんだね!



## 第 5 問の答え

### ④ およそ 180 軒

神田神保町古書店街は、明治 10（1877）年にでき、140 年以上<sup>いじょう</sup>の歴史<sup>れきし</sup>があります。毎年秋には、「東京名物神田古本まつり」や「神保町ブックフェスティバル」などのもよおしが行われ、たくさんの人でにぎわいます。みなさんもお気に入りの本を見つけてみてはいかがでしょうか。



読書好きな人々でにぎわう古本まつり

ここで一句 古書店の<sup>きざ</sup>においては歴史刻んでる

## 第 6 問

昭和 39（1964）年の東京オリンピックでは、柔道じゅうどうの競技きょうぎ会場として日本武道館が使われました。今でも武道大会やコンサートホールとして人々に親しまれています。

日本武道館の屋根は、ほかの建物たてものとはちがい、特別な形とくべつをしています。この屋根は何の形を表しているでしょうか。

むずかしさ ★★

- ① 大波
- ② アルプス山脈さんみやく
- ③ 富士山
- ④ ピラミッド



日本武道館正面



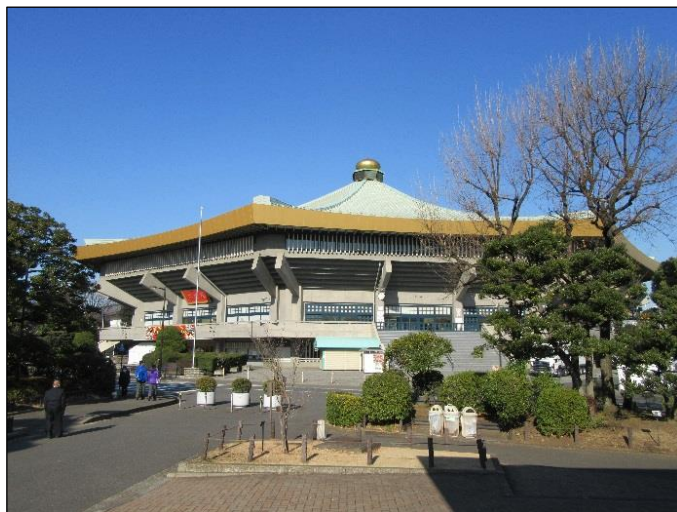
みんな知っていたかな？

## 第 6 問の答え

### ③ 富士山

日本武道館の屋根は、日本がほこる富士山の形をかたどっています。屋根の先たんからすそに向かってなだらかに広がる様子が堂々とした富士山を表してします。

日本武道館は、国民にスポーツに親しんでほしいという願ねがいから、日本の武道を広める活動こていをしています。固定席が14000席以上いじょうもあり、競技会場のほかにもコンサートやイベントの会場としても使われています。



美しい屋根の日本武道館

**ここで一句 富士山を屋根にいただく武道館**

## 第 7 問

ビルが立ち並ぶ都心の中に広がる自然から「都会のオアシス」とも呼ばれる北の丸公園。ここには、国の天然記念物に指定されているあるものが自然に生えています。都会で見られることはとてもめずらしいと言われていますが、それは何でしょう。

むずかしさ ★★★★★

- ① ガジュマル
- ② ヒカリゴケ
- ③ ヤマナシ
- ④ オキチモズク



北の丸公園の入口



見つけてみよう！



## 第 7 問の答え

### ② ヒカリゴケ

北の丸公園の西側にある堀<sup>ほり</sup>には、石垣<sup>いしがき</sup>のわずかなすきまに「ヒカリゴケ」が見られます。江戸城<sup>た</sup>が建てられるときに全国から運びこまれた石垣用の岩に付いたまま持ちこまれたと考えられていますが、本来はどうくつなどでしか見る<sup>きちょう</sup>ことができない貴重なコケです。

ヒカリゴケは小型のコケ植物で、自力で発光するのではなくわずかな光<sup>はんしゃ</sup>を反射して光っているように見えます。反射光は美しい緑色です。

みなさんも、遠足などで北の丸公園へ行ったときにさがしてみてください。



思いきり遊べる北の丸公園

**ここで一句 ヒカリゴケ見つけた天然記念物**

## 第 8 問

千代田区内で行われているお祭りの中には、京都の「ぎ おんまつり祇園祭」、大阪の「てんじんまつり天神祭」と並び日本三大祭にかぞえられているお祭りがあります。そのでんとう伝統あるお祭りとは、次のうちどれでしょう。

むずかしさ ★★★

① 神田神社 神田祭

② みさきいなり三崎稻荷神社 れいたいさい三崎神社例大祭

③ ひ え日枝神社 さんのう山王祭

④ やすくに靖国神社  
みたままつり





大きなお祭りだよ！

## 第 8 問の答え

### ① 神田神社 神田祭

神田神社は、神田・日本橋・秋葉原など 108 町会そううじがみの総氏神をまつるれきし歴史ある神社です。

神田祭は、江戸時代から江戸っ子たちに親しまれ「天下祭」とたたえられる、由緒ゆいしよあるお祭りです。

ちなみに、③日枝神社の山王祭は日本三大祭ではありませんが、江戸三大祭のひとつです。

神田祭本祭は、一年おきに行われます。みなさんもぜひ参加さんかしてみてください。



神田神社の正面入口

ここで一句

江戸っ子はワッシュヨイワッシュヨイ祭り好き

## 第 9 問

こっかいぎじどう  
国会議事堂は、つくられた当時、日本  
一の高さをほこり、みかげ石でおおわれ  
た白くて美しい姿から「すがた白はくあ亜でんどうの殿堂」と  
もよばれました。17年という期間をかけ  
かんせい  
完成した国会議事堂ですが、その工事に  
かかわった人はおよそ何人だったでしょ  
う。

むずかしさ ★★★★★

- ① のべ 100 万人
- ② のべ 150 万人
- ③ のべ 200 万人
- ④ のべ 250 万人



正面から見た国会議事堂



大変な工事だったんだよ！



## 第 9 問の答え

④ のべ 250 万人

17 年間で、国会議事堂の工事にかかわった人は、のべ 254 万人です。千代田区の人口はおよそ 48000 人ですから、それに<sup>くら</sup>比べるととても多くの方が工事に参加していたことが分かります。

<sup>げんざい</sup>現在の国会議事堂は、大正 9（1920）年 1 月に工事を始め、17 年かけて昭和 11（1936）年 11 月に完成しました。

昭和 11（1936）年 12 月 24 日の第 70 回<sup>ていこく</sup>帝国議会から使用され、現在にいたっています。



**ここで一句 議事堂は白亜の殿堂みかけ石**

## 第10問

秋葉原駅の近くにある佐久間公園は、あることがはじめて行われた公園として知られています。

それは次のうちどれでしょう。

むずかしさ ★★★

- ① 野球
- ② フォークダンス
- ③ ラジオ体操たいそう
- ④ ドッジボール



佐久間公園



ラジオ体操で元気いっぱい！

## 第10問の答え

### ③ ラジオ体操

佐久間公園は、ラジオ体操が初めて行われた場所として知られています。

ラジオ体操は、昭和3（1928）年、人々が健康に<sup>けんこう</sup>すごせるようにつくられました。今でも日本中で子どもからお年寄<sup>よ</sup>りまで広く親しまれています。

この公園でも、多くの人々が毎日朝早く公園に集まり、ラジオ体操をしています。

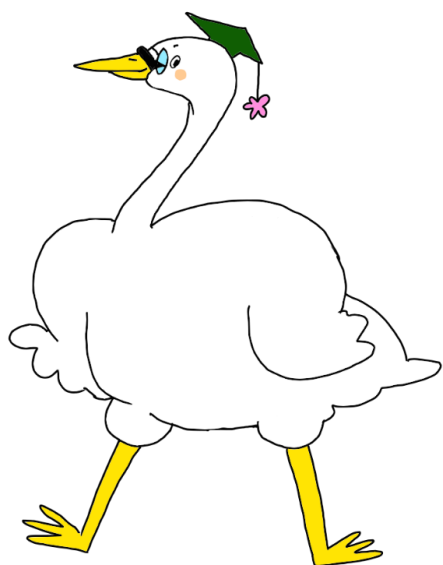


「ラジオ体操会発祥の地」の石碑

**ここで一句 初めてのラジオ体操千代田から**

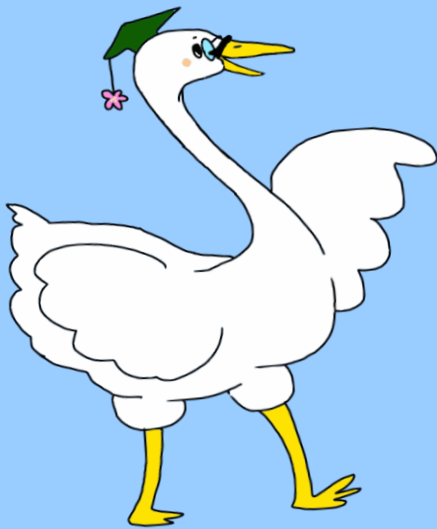
# 千代田区大好き度をはかってみよう！

10問 <small>せいがい</small> 正解	大好き度 100%！！ 全問正解したあなたは千代田区博士！ <small>はかせ</small>
9～7問 正解	大好き度 80%！ おいしい、もうひと息！
6～4問 正解	大好き度 50% めざせ！千代田区博士！
3～0問 正解	大好き度 30% 千代田区をもっと好きになってね！



千代田区について、あなたは  
どのくらい知っていたかな？

これからも、千代田区のをさを  
たくさん発見してみよう！



## ハクチョ博士

区の鳥ハクチョウのぼうしの緑色は区の木マツを表しています。ぼうしには区の花サクラもついています。

平成 28 年度「千代田学」事業

千代田区子ども検定

■■ おためし版 ■■

平成28年度「千代田学」事業実績報告書

小学生を対象にした千代田区の地域素材の教材化に関する実践的研究

—「千代田区子ども検定」の作成・発信—

著者 共立女子大学家政学部児童学科 本澤 淳子

資料提供 本澤ゼミ 千代田学代表 佐久間 美咲・進藤 恵美

発行 共立女子大学家政学部児童学科 本澤研究室

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-27

発行年月 平成29年3月13日

\* 無断での転載はお断りいたします